

秘

右獨支電信約定左ノ如シ
獨逸電信主管廳及支那電信主管廳ハ相互間ノ善良ナル關係ヲ保持セ
ンコトヲ希望スルヲ以テ關係事項ヲ規定スル約定ヲ締結スルコトニ
決シ之カ爲獨逸電信主管廳ハ上海駐在獨逸總領事現公使館參事官一

SP. 81 631

青島芝罘及青島上海海底電線

獨逸ハ夙ニ青島芝罘及青島上海海底電線敷設ヲ企圖シ支那政府及支
那ニ於テ海底電線ニ付特權ヲ有スル大北電信會社ニ交渉ヲ重ネタル
モ意ノ如クナラス交渉ヲ中止スルノ已ムヲ得サルニ至リタル模様ナ
リシ處偶々國匪事件ニ際シ其ノ動亂ニ乘シ獨逸官憲ニ於テ勝手ニ敷
設シ自ラ之カ經營ヲ遂行シタルカ千九百七年五月三十一日獨逸政府
ト支那電政局トノ約定ニヨリ支那政府ヲシテ之ヲ公然承認セシメタ
リ

手考

SP. 81 630

ナハ臨時議定ノ上英金ニヨリテ計算スヘシ
此契約ハ英文兩文ニテ各三通ヲ作製シ調印ノ上三者各一通宛ラ所
持シ以テ後日ノ證トス
光緒二十六年七月十日
西曆一千九百年八月四日

パウル、フオン」氏ヲ支那電信主管廳ハ上海道臺周萬鵬氏ヲ其ノ全
權委員ニ任命シ右委員ハ各其ノ政府ヨリ相當委任ヲ受ケ左ノ條款ヲ
協定セリ

第一條 獨逸電信主管廳ハ本約定ノ期間中豫メ支那電信主管廳ノ同
意ヲ得シテ本約定批准ノ際吳淞、青島及芝罘ニ存在スル其ノ海
底電信系ヲ延長セサルコトヲ約ス又前記獨逸電信主管廳ハ電信線、
無線電信又ハ其ノ他何等ノ方法ニ依ルモ支那電信主管廳ノ内海及
沿海通信ト競争ヲ爲ササルヘシ
且獨逸ハ海底線、電信線及無線電信又ハ其ノ他ノ方法ニ依ル通信
ノ建設若ハ擴張ニ付支那ニ於ケル最惠國ノ待遇ヲ享有スルコト即
獨逸ハ右ノ關係ニ於テ法律上事實上他ノ政府主管廳又ハ會社ニ劣

ラサルコトヲ約定ス

第二條 支那電信主管廳ハ青島ニ撥着スル通信カ一方ニ於テ上海、
青島、芝罘間獨逸海底線ト他方ニ於テ該通信ニ關係アル總テノ電
信會社トノ間ニ運滯ナク且制限ナク傳送セラルルコトニ同意ス向
主管廳ハ又「非合併計算」ト稱スル通信ニ付上海、青島線ニ對ス
ル附加料金ヲ自今支那電信主管廳ハ拂込マス獨逸海底線主管廳ニ
拂込ムコトニ同意ス

第三條 本約定ノ批准後成ルヘク速カニ支那電信主管廳ハ在芝罘及
北京獨逸郵便局ヲ在本地支那電信主管廳ノ局ニ接觸スルニ必要ナ
ル電信線ヲ建設シ斯クシテ第四條ニ規定セル執務時間中上海、青
島、芝罘ノ獨逸海底線ト芝罘、太沽、北京ノ支那線トノ間ニ獨立

通信連絡ヲ設クヘシ

第四條 第三條ニ規定セル通信連絡ハ支那主管廳ノ芝罘ト太沽海底

線カ二線共運用状態ニ在ル場合之ヲ真正ナル獨逸官報ノ傳達ノ爲

日々左記ノ時間中在芝罘及北京獨逸郵便局ノ使用ニ供スヘシ

自午前九時三十分 至同十時 自午後一時 至同一時三十分

自午後四時 至同四時三十分 自午後九時 至同九時三十分

尚獨逸郵便局ヨリ要求アルトキハ執務時間中ニ於テ芝罘ト太沽

ト北京線カ支那主管廳ノ通信ニ使用セラレ居ラサル他ノ時間

然レトモ兩當事者ハ此等ノ場合ニ於テ友誼ヲ盡シ相互ノ業務取扱

ニ付成ルヘク遲滞ナカラシムルコトニ最善ノ力ヲ盡スヘシ

第五條 芝罘ト太沽海底線ノ一カ不通トナリタルトキ若ハ支那主管

廳カ太沽北京間ノ通信ニ對シ單ニ一線ノミヲ使用シ他ノ一線ハ通

信幅狭シ之カ爲殘餘ノ海底線若ハ電信線ヲ第四條ニ規定セル時間

中獨逸郵便局ノ使用ニ供スルコト能ハサル場合即チ支那主管廳ノ

正當ナル利益ニ反スル場合ニハ獨逸主管廳ハ芝罘ト北京電信線ヲ

其ノ専用トシテ一日一時間以上要求セサルコトニ同意ス而シテ右

一時間ハ午前九時三十分ヨリ同十時迄及午後四時ヨリ同四時三十

分迄トス右時間外及本條初項ニ掲ケタル場合ニハ獨逸主管廳ハ政

治上ノ状態ノ許ス限り其ノ官報ヲ支那主管廳ニ傳達スヘク支那主

管廳ハ最短ノ期間内ニ無料ニテ之ヲ受信人ニ送達スルモノトス

然レトモ支那主管廳ハ第四條ニ規定セル以外ノ時間ニ於テモ亦殘

餘ノ電信線ヲ獨逸主管廳ノ使用ニ供スルコトニ最善ノ力ヲ盡スヘ

シ他方ニ於テ獨逸主管廳ハ此等ノ場合規定ノ時間ヲ制限スル爲支
那主管廳ニ對シ出來得ル限リノ讓歩ヲ爲スヘシ

第六條 獨逸主管廳ハ芝罘ノ北京相互間ノ通信ニ對シテハ支那主管
廳ノ意見ニ於テ芝罘ノ太沽海底線ニ破壞的效果ヲ及ボササルヘ
キ力ノ電池ヲ使用スルコトヲ約ス

第七條 支那主管廳ハ獨逸主管廳ノ海底線ノ一若ハ二線カ不通中獨
逸郵便局ヨリ傳送セラレタル總テノ通信ヲ上海ノ芝罘海底線ニ依
リ送附シ上海芝罘相互間ニ無料傳送ヲ爲スヘキ真正ナル獨逸官報
ヲ除キ右通信ニ對シテハ所定ノ料金ヲ課スヘシ

上海ノ芝罘直達海底線ノ不通中獨逸主管廳ハ支那主管廳ノ要求ア
ルトキハ上海ノ青島ノ芝罘海底線ヲ獨逸ノ特別ナル通信ノ爲占用

セラレ居サルコトヲ條件トシテ支那主管廳ノ使用ニ供スヘシ獨逸
海底線ニ依ル通信ニ對スル獨逸主管廳ノ計算ハ左記ノ料金ニ依リ
計上スルモノトス

(一)「合併計算」及「隣接通信合併計算」無料

(二)「地方的」ト稱スル總テノ通信及芝罘ヨリ傳送セラレタル「
非合併計算」ト稱スル通信 外國電報ハ一語十他支那電報及

新聞電報ハ一語五他

(三)支那内地ヨリ來ル通信及支那電信線ノ何レノ部分カラ通過シ
テ芝罘ニ着スル「非合併計算」ト稱スル通信 本條(二)ニ規定
セル料金

(四)單ニ外國會社ノ海底線ヲ通過シ芝罘ニ着スル「地方的」ト稱

スル通信及「非合併計算」ト稱スル總テノ通信 外國電報ニ
對シテハ一語二十六仙、支那電報及新聞電報ニ對シテハ一語
十三仙

(四) 上海芝罘間ニ發着シ獨逸海底線ニ傳送セラルル該兩地間ノ總
テノ地方通信 本條(四)ニ規定セル料金

内總テノ真正ナル支那官報ハ全然料金ヲ免除セラル

第八條 獨逸主管廳ハ上海―青島―芝罘海底線ニ於テハ支那主管廳
カ現行規則ニ從ヒテ定メタル料金ヨリ低廉ナルモノヲ設ケサルコ
トヲ約ス加之獨逸主管廳ハ支那主管廳ト全然競争ヲ爲スコトヲ避
クヘク且全オ料金ヲ免除セラルル獨逸官報ヲ除キ上海芝罘間海底
線ニ依リテ右兩地間ニ發着スル總テノ通信ニ對シ其ノ收入ノ半額

ヲ支那主管廳ニ拂込スルモノトス

第九條 獨逸主管廳ハ塘沽ヨリ北京ニ至ル電信線ニ塘沽ヨリ天津迄
ノ支線ヲ包含シタルモノヲ現在ノ狀態ノ儘即チ電柱、青銅線及之
ニ附屬スル碍子ト共ニ直ニ支那主管廳ニ引渡スヘシ此ノ爲ニ支那
主管廳ハ電信線引渡ノ日ニ支拂フヘキ額四九乃至一七五「マルク」
ヲ交付スヘシ支那主管廳ハ前記獨逸電信線ノ電柱ニ一部懸繋セラル
ル獨逸軍政廳ノ鐵線ヲ除去若ハ破毀セサルコトヲ約ス又支那主管
廳ハ獨逸軍隊カ全部北支那ヨリ撤退スルマテハ此ノ電線ヲ獨逸軍
政廳ノ使用ニ委スルモノトス獨逸主管廳ハ軍政廳カ獨逸帝國ノ地
方的業務ニ必要ナル電報以外ノ電報ノ送達ノ爲ニ該電線ヲ使用セ
サル様監視スヘシ

第十條 山東鐵道會社ハ獨逸主權ノ同意ヲ得テ私報ノ送達ニ付テ
ハ支那國內ノ鐵道電信線ニ關スル規定ノ別寫第一條ニ明示セル制
限及條件ニ從フコトヲ約ス

第十一條 本約定ニ使用セラルル「合併計算」、「境界通信合併計
算」、「非合併計算」及「地方的」ノ語ハ左記ノ事項ヲ意味ス

(一) 合併計算 一方ニ於テ支那ト地方ニ於テ歐羅巴 (アルジェリ
ス、タンジエル、トリポリ) 亞米利加及其ノ以故トノ間ニ總
及亞細亞土耳其含ム) 支那ニ着スル通信
テノ線路ニ依リ交換セラレ且支那ニ着スル通信

(二) 隣接通信合併計算 支那ニ着シ支那 (香港ヲ) ト歐羅巴露西
亞及亞細亞露西亞 (「ボクハラ」) トノ間ニ交換セラルル通
信及支那 (香港ヲ) ニ着シ「ナヘラン」、「ヂウルフア」及

「バツム、エル、アリシ」ヲ經由シテ露西亞ヲ通過スル通信
或電通信線ニ依リ支那ヲ通過スル通信 (香港着發ノ
通信ヲ含ム)

(三) 地方的 支那ノ境域内ニ着發スル通信

(四) 非合併計算 本條(一)及(三)ニ含まレタル總テノ通信

第十二條 本約定ニ關シ異見ヲ生シタル場合ニハ其ノ爭點ハ在北京
獨逸公使及外務部ノ裁決ニ從フモノトス

第十三條 現規定ハ千九百七年七月一日ヨリ其ノ效力ヲ生シ千九百
二十五年十二月三十一日ニ至ル迄改正停止ニ付キ附屬シ得ル兩締
約國ノ權利ヲ害フコトナク有效ニ持續セラルヘシ該期間後一箇年
間各締約國之ヲ廢棄スルノ權利ヲ留保ス

第十四條 本約定ハ單ニ佛蘭西語ニ於テノミ之ヲ寫書セラル在北京

獨逸公使及外務部之ニ批准スルモノトス

西曆千九百七年五月三十一日即光緒三十三年四月二十日

北京ニ於テニ通ヲ作成ス

獨逸總領事 パウル、フォレ、フリ (署名)

支那帝國電信主管廳

局長 周 萬 麟 (署名)

グラフ、レツクス (署名)

右承認ス

SP. 81 642

REEL No. 1-0088

0377

大正十一年四月上旬

目録

目録

(自大正九年十二月
至大正十一年三月)

目録 第一編

目録

目録

(自大正九年十二月
至大正十一年三月)

目録

第一章 第八回全俄「ソヴェト」大會

第一節 國民經濟省長「ムイコフ」ノ發表セル露國經濟狀況及將來ノ

計畫

第二節 大會ノ決議事項

第二章 大正十年一、二月ノ交ニ於ケル露國經濟的危機並ニ各地廢産

第一節 經濟的危機ノ概察

第二節 露都及莫斯科ノ廢産

第三節 各地農民ノ廢産

第四節 糧食及過渡派ノ態度

SP. 81 644

SP. 81 643

REEL No. 1-0088

0378